

採点競技としてのブレイキンに関する一考察

藤田明史（相愛大学 特別研究員）

すでによく知られている通り、国際オリンピック委員会（IOC）は2024年に開催される夏季オリンピックパリ大会で、ブレイキンを正式種目として追加することを決定した。IOCはその理由として、男女共同参画が可能であることや、若年齢層の活躍が促進できることを上げている。この声明からも理解できるように、ブレイキンの世界的な競技者人口の広がりは今後さらに増加すると予想される。

ブレイキンとは、いわゆるブレイクダンスの競技形態で、フットワークに加えてバックスピンやヘッドスピンといったパワームーブを含むダンスである。その発祥から現在に至るまで、ブレイキンはダンスで優劣を競うバトルを通して発展してきた。

ブレイキンのバトルに関する先行研究として、バトルを対話の場として捉え、ダンサー同士の相互作用がどのように展開するのかを明らかにしたドッズの研究（Dodds 2016）や、バトルで生じるダンサー間の協調関係を実証的に検証した清水・岡田の研究（清水・岡田 2020）がある。このように、まだ歴史の浅いダンスを解明しようとする研究は増えつつある。

ここで問題となるのが、ブレイキンのバトルの採点基準である。体操競技やフィギュアスケートに代表される採点競技は、演技の難易度や試行の美しさを点数化して優劣を競うものであり、その判定の際は演技や動きの出来映えを正確に判定できるかが重視される。これらの競技では、合理的かつ客観的な基準の制定を目指し、採点項目の細分化や変更・改訂が繰り返されてきた経緯がある。

2018年に開かれたユースオリンピック大会で正式種目として採用されたブレイキンでは、基本採点基準に[身体的(技能/多様性)]、[解釈的(能動性/音楽性)]、[芸術的(創造性/個性)]の3つを据えたトリヴィウム・システム(The Trivium Value System)と呼ばれる独自の基準を用いて採点が行われた。2024年の本大会では「技術力、創造性、スタイル、スピード、力強さ、リズム、敏捷性など、さまざまな基準で審査される」と公式サイトに記されているものの、現時点でどのような採点基準になるかは明らかにされていない。

ブレイキンの採点方法は上記した以外にもいくつかの例があり、これまで最も主流な方法はジャッジとして招かれたダンサーが評価を行うピアレビュー形式であった。しかし、ジャッジの個人的な感情が評価を左右してしまうといった懸

念点が唱えられていた。そのため、公正かつ大衆にも広く受け入れられるジャッジシステムの構築が望まれている。動きが流動的で即興的に踊るブレイキンの採点基準の選定は困難を要すると考えられる。

そこで本発表では、これまでに採用されたバトルの採点基準を改めて確認し、通底する共通点や差異を見出すことで、採点競技としてのブレイキンにおいて重要視される性質を明らかにする。

考察を進めるうえで、ブレイキンの発祥当時から連綿と受け継がれてきた「ファンデーション(Foundation)」という概念に注目したい。シュロスはそれを「ブレイキンに特有の動きの知識と歴史のおよび哲学的な背景を組み合わせた概念(Schloss 2009: 13)」と定義した。シュロスはブレイキンにおけるファンデーションをアフリカン・アメリカン文化の中で生じた一つ概念として捉え、歴史的側面から定義を導き出した。しかし、今日の採点競技としてのブレイキンにおけるファンデーションには考察が及んでいない。

ファンデーションはブレイキンのダンサー達に今日でも重視されている概念であり、実際にバトルの評価基準の項目として取り入れられている大会もある。しかし、その大会の評価基準では単なるブレイキンの基礎的な動きという意味で用いられている。本来であれば、文化の歴史的背景を含んだ概念として解釈されるはずのファンデーションであるが、今日ではその概念に揺らぎが生じている。その揺らぎこそが、文化としてのブレイキンから採点競技としてのブレイキンへと移り変わる過程で生まれた課題であると言える。

本発表ではシュロスの定義した概念の再検討をふまえることで、ブレイキンというダンスを採点することの意義を示す。以上を明らかにすることで、今後のブレイキンに対して一つの道標を示すと同時に、「ダンスとスポーツ」という議論に新たな視座を提供することが出来るだろう。

参考文献

- Dodds, Sherril. “Hip Hop Battles and Facial Intertexts”, *The Journal of the Society for Dance Research*, Vol. 34, Edinburgh University Press, 2016, pp. 63-83.
- Schloss, Joseph. *Foundations: B-Boys, B-Girls, and Hip-Hop Culture in New York*, Oxford University Press, 2009.
- 清水大地・岡田猛「競争的文脈における演者間の協調関係:ブレイクダンスのバトル場面に関する検討」『人工知能学会全国大会論文集』2020年、1-4頁。